



最新ボランティア情報

地域交流センターに届いた**最新ボランティア情報**をこちらに掲載します。詳細な情報が掲載されているチラシは、地域交流センターに掲載されていますので、気軽に取りに来て下さいね。地域交流センターの場所は、2号館1Fインフォメーション隣です。

イベントと一緒に盛り上げてくれる方大募集!!

- ◆内容 ①あおぞら広場:障害のある子どもたちが音楽や運動、調理、外出する際のサポート
②みんなの広場:障害のある子どもたちが外出をする際のサポート
③トゥインクル:障害のある成人の方が外出や宿泊旅行をする際のサポート
④こどもの広場:地域の子も、保護者向けのイベントを行う際のサポート
- ◆日時 ①平成24年7月16日(月・祝)、9月23日(日)、10月21日(日)など
②平成24年10月27日(土)、12月1日(土)
③平成24年7月8日(日)、9月2日(日)、10月14日(日)など
④平成24年2月23日(土)



- ◆場所 みどり地域活動ホームあおぞら (JR 中山駅北口下車徒歩12分)
- ◆その他 本活動の見学ができます。見学をする際には、電話かmailにてご連絡ください。登録の際には、名前・所属・年齢・性別・電話番号が必要となります。
- ◆問い合わせ先 みどり地域活動ホームあおぞら TEL:045-929-2566 mail:y_suzuki@ysss-net.or.jp

青少年フェスティバル実行委員募集!!

- ◆内容 幼児とその保護者、小中学生を対象としたフェスティバルの企画・運営
- ◆日程 平成25年3月17日(日)
- ◆場所 川崎市とびろきアリーナ等マカ緑地内催し物広場
- ◆応募方法 電話・FAX・メールのほか下記問い合わせ先にご連絡ください。ほかき・FAX・メールの場合は、住所・氏名・年齢・電話番号(メールアドレス)、実行委員希望と記載し、応募して下さい。
- ◆〆切: 平成24年7月27日(金)(ほかきについては、当日消印も有効です)
*7月中旬以降に第1回青少年フェスティバル実行委員会を予定しています。
- ◆問い合わせ先 川崎市青少年フェスティバル実行委員会事務局
〒210-8577 川崎市市民・こども局こども本部子育て施策部青少年育成課
TEL:044-200-2669 FAX:044-200-3931 E-mail:25seiku@city.kawasaki.jp

7/21に福祉マインド実践講座内で説明会を開催します。



夏祭りボランティア大募集!!

- ◆内容 模擬店の手伝い、ご利用者様の付き添い
- ◆日時 平成24年8月5日(日)14:00~
- ◆場所 リハパーク舞岡(横浜市戸塚区舞岡町3048-4)
横浜市営地下鉄 舞岡駅下車、徒歩10分
- ◆〆切 7月30日(月)まで
- ◆問い合わせ先 リハパーク舞岡 045-825-3388 ボランティア担当:北川・吉岡
夏祭り以外でも、手芸や書道、生け花、将棋、囲碁、傾聴などのボランティアも募集しています!!



皆さん! 福島を忘れていませんか?



私たち、田園調布学園大学は忘れていません!!



田園調布学園大学 ボランティア情報誌

Vol.33

発行日: 2012年(平成24年)6月30日(土)
発行: 田園調布学園大学 地域交流センター
〒215-8542 神奈川県川崎市麻生区東百合丘3-4-1
TEL: 044-966-2780 FAX: 044-966-3512
E-mail: c-center@dcu.ac.jp
ホームページ: <http://www.dcu.ac.jp/region/regional01/>

今月号は、本学主催の復興支援ボランティア活動の結果報告をします!!



ボランティア活動報告



2月に引き続き、平成24年5月27日(日)に福島県いわき市の仮設住宅にて復興支援活動を行いました。子ども家庭福祉学科4年生1名、子ども未来学科2年生9名、社会福祉専攻4年生1名、3年生1名、2年生2名、心理福祉学科2年生1名、教職員4名の計19名が参加しました。

今回も前回同様、現地の見学をしてから復興支援活動を行うという流れで行いました。

現地の見学では、前回はなかった現地の方とお話できる機会がありました。学生たちは現地の方の生の声を聞き、より鮮明に被災地の人々の思いを感じたようです。そして、予想以上に復興へのスピードはゆっくりで長い時間を要することも理解したようでした。

この活動において、実際に仮設住宅に入る前に現地の今現在の様子を知ることとは大変重要なことです。様子を知ることにより活動に対する重みが増し、午後からのボランティア活動から行えるからです。学生の感想でも「テレビで感じるのと違い、実際の現場に赴くことで、多くのことを感じた。胸が痛くなった」という感想があり、それを強く感じたようでした。

実際のボランティア活動ですが、今回は「こども広場」と題し、ボーリング・もぐらたたき・射的・缶つま・工作・外遊び(ボール遊び、シャボン玉、縄跳び)を行い、15人の子どもたちに楽しんでもらいました。そのうち半数以上の子どもたちは最初から最後まで遊んでくれました。その模様がいわき市復興支援センターのブログにも掲載されています。なお、前回の活動を見学した「いわき明星大学学生赤十字奉仕部」と事前にやり取りをし、今回の活動に2人の学生が参加しました。

今回、いわき市民の思いを、社会福祉協議会の方にお話いただき、この活動の重要性をさらに深く感じることができました。また、学生たちも企画・実施と一連の流れを協力し合いながら行ったことで、連帯感が生まれ、やり遂げることで達成感を共感したようです。

帰りのバスの中では多くの感想や反省が話され、参加する前と後で気持ちの変化があった



↑↑作業している様子



↑ボーリングしている様子

ことは一人一人の言葉を聞けば、すぐに理解できました。

今後も地域交流センターでは、東日本大震災被災地復興支援ボランティア活動に対する助言と支援を続けていきます。

【学生の皆さんへ】

被災地でボランティア活動を行う場合は、地域交流センターへ相談しに来てください。皆さんが安全に活動できるようにアドバイスします。



↑海での一枚



国際交流サークル



からのニュース



6月7日(木) 15:00~16:15まで、番匠先生の研究室にて国際交流サークル「E.A.R.T.H. (アース)」の芳賀さん、チンさん、和田さん、大賀さんが、本学が提携を結んでいるベトナムのホンバン国際大学で日本語を専攻している学生の皆さんとFaceTime(Wi-Fiネットワークを経由した無料通話)を活用して交流会を行いました。

ベトナムと日本は約5000Km(時差は2時間)離れていますが、パソコンとタブレットを活用することで、お互いの顔を見ながら会話を楽しむことができました。ベトナムの学生は、皆日本語が堪能で、電波状態が悪く音声聞こえづらい中、一生懸命本学の学生の話に耳を傾けていました。今回は、大学の紹介、自己紹介、質問(文化や流行りなど)などをし合い、話が途切れることなく、楽しく過ごしました。

参加した学生からは、「様々な視点で話せるので楽しい」「日本の文化を曖昧に答えてしまったので、もっと勉強しなくてはならないと思った」「今後ともこの活動を続けていきたい」などの感想がありました。このようなインターネットを介した交流会は他ではあまり例がなく、今後もこのような活動が続くと良いと思います。

